

“おひとりさま”住宅

One House For All. All House For One.

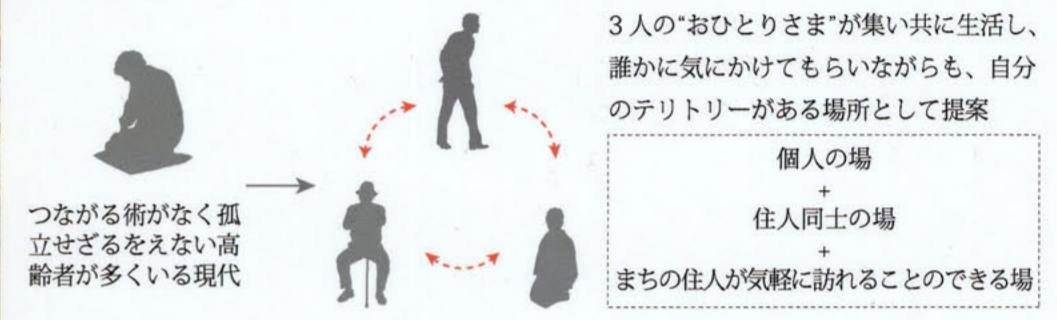


1. 現在の高齢者社会

現在、日本の高齢化は急速に進んでいる。65歳以上の高齢者の人口は、3384万人で総人口に占める割合は26.7%と、いずれも過去最高になった。第2次ベビーブームの世代が65歳以上になる2040年には、総人口の36.1%が高齢者になるそうだ。これらの問題に加え、近年は未婚率や離婚率の増加などにより、**独り身で暮らす高齢者**も増えている。

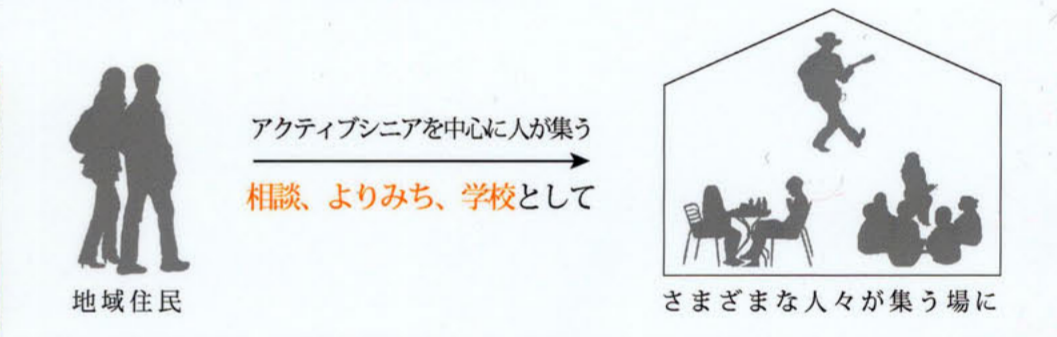
2. “おひとりさま”住宅

高齢化が進む中で、「**独り暮らし**」ではなく、自立し、趣味などの自身の時間を過ごし、他人とも関わることで「**おひとりさま**」として人生を謳歌する。そんな、これからの平屋を提案する。

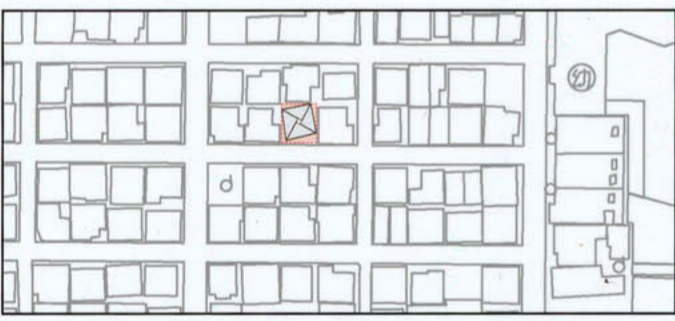


3. 住人 —アクティブシニア—

近年、団塊世代を中心に趣味や地域活動などに意欲的で、様々なことに対してチャレンジ精神も旺盛な、「**アクティブシニア**」と呼ばれる活動的なシニアが増えてきている。そんな、若いもなお他人とも関わりをもつことに積極的なアクティブシニアを対象とした。

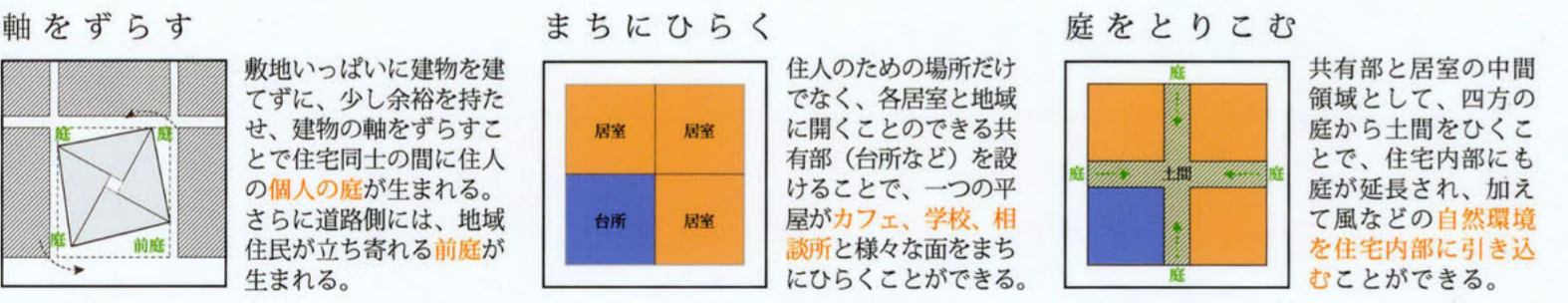


4. 敷地 —郊外住宅地—

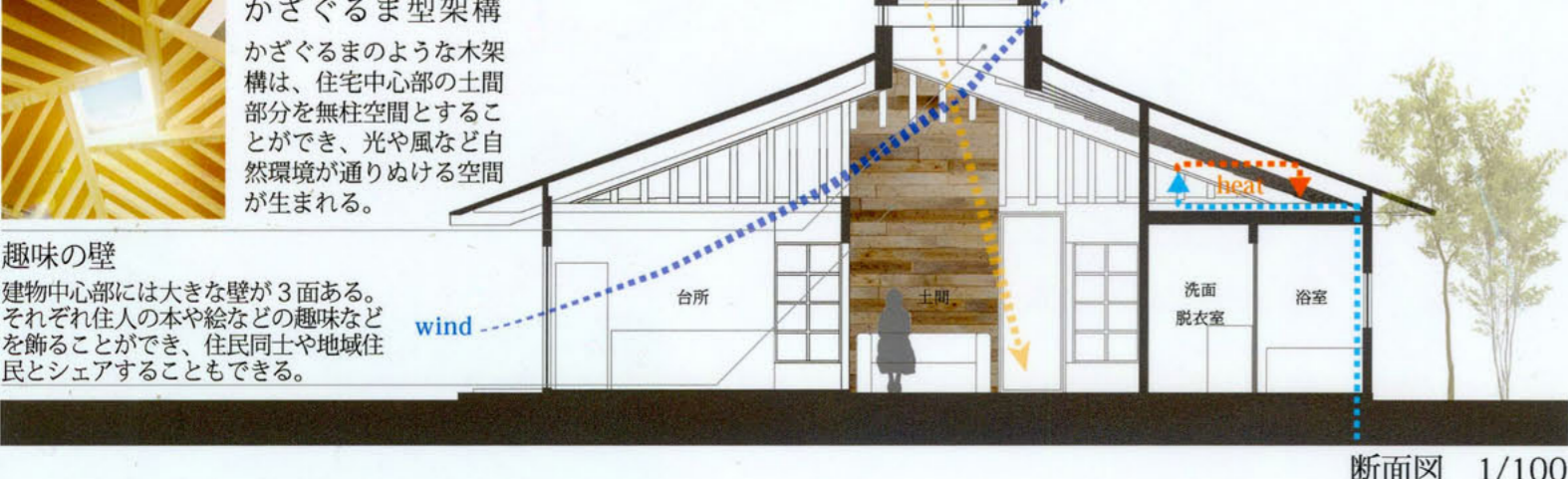


敷地はとある郊外の住宅地。高齢化の進むこのまちでは、地域の担い手不足、元気な高齢者の居場所がない、若い世代のまちへの関心低下などのコミュニティの希薄化が問題視されている一方で、**地域住民は、繋がりを求め、交流を求めている**。そんな場所に、幼少期をこのまちで過ごした3人のシニアが互いに出資しあい平屋を建てた。

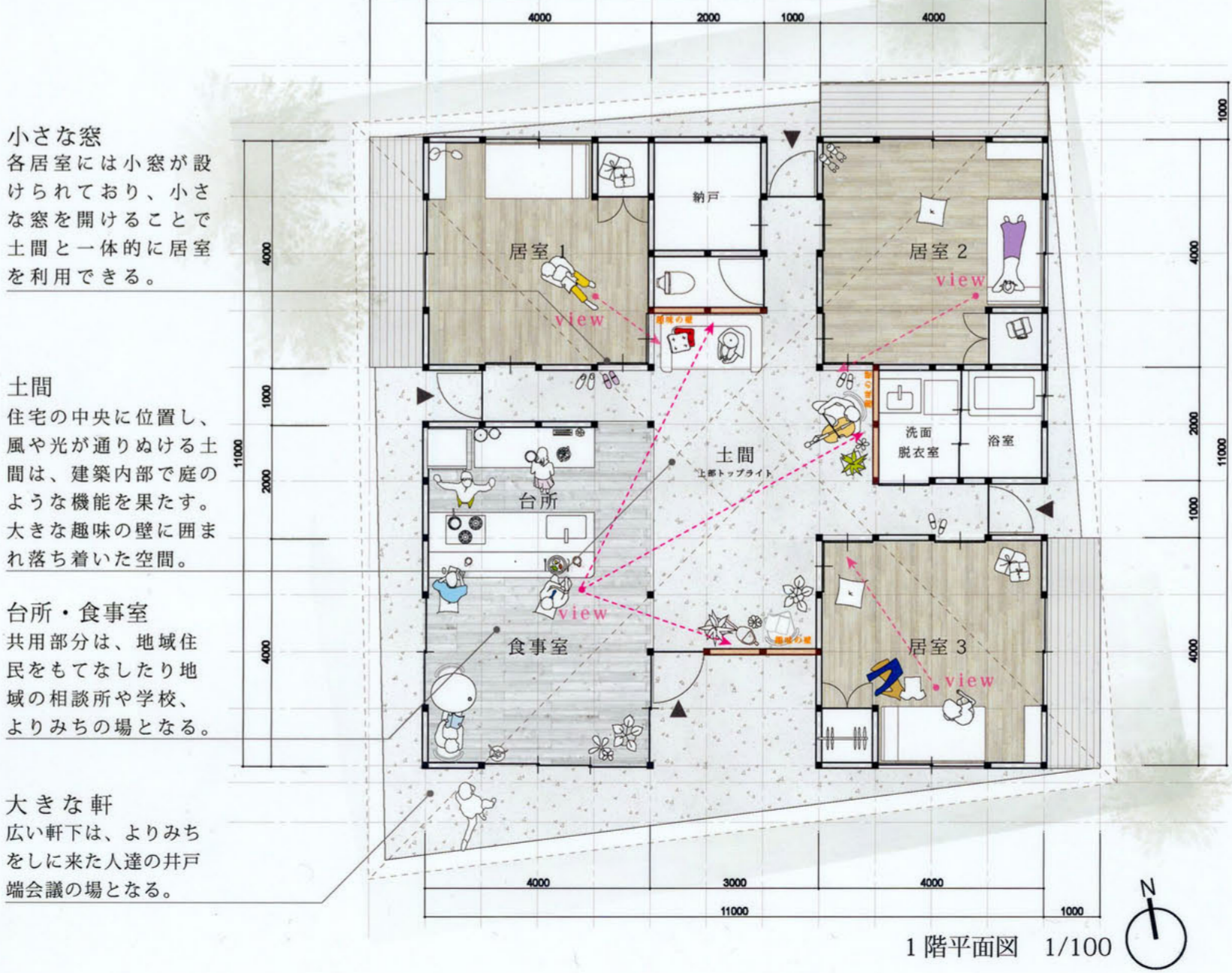
5. ダイアグラム —まちと平屋—



6. 断面計画



7. 平面計画



8. 住環境提案

